

令和3年度 事業報告

1 会計監査

4月19日(月)午後3時～5時 都庁第二本庁舎16階16C会議室を会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施(本会事務局長立合い)。

2 理事会

5月18日(火)オンラインによる開催

3 総会・講演会

6月29日(火)

- ・総会 オンラインによる開催
- ・講演会 演題:「近代日本社会の創造者 渋沢栄一をさぐる」
講師:井上 潤 氏

公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事・渋沢史料館館長

(総会・講演会の報告は会報第160号、会誌第59号に掲載)

4 委員会

- (1) 企画推進委員会(第1回) 7月8日(木) 全商会館3階中会議室で開催
企画推進委員会(第2回) 11月16日(火) 書面による開催(オンライン会議併用)
企画推進委員会(第3回) 1月13日(木) オンラインによる開催
- (2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会 9月17日(金) 都庁第二本庁舎15階15B会議室で開催
- (3) 作文選考委員会
全体会 5月14日(金) 書面による開催
分科会(高等学校・専修学校の部) 10月19日(火) 都庁第二本庁舎16階16C会議室で開催
分科会(中学校の部) 10月21日(木) 都庁第二本庁舎15階15B会議室で開催

5 振興奨励事業

- (1) 教育功労者表彰:11月11日(木)午後3時から全商会館3階中会議室において、御下賜金記念産業教育功労者(30名)、中学校技術・家庭科教育功労者(9名)の表彰式を挙行政した。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。(会誌 p61~62)
- (2) 研究団体助成:産業教育関係の教育研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。
- (3) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は213点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞6名(中学校3名、高校2名、専修学校1名)、佳作26名(中学校15名、高校11名)計34名の入選者を選定した。
表彰式は12月17日(金)に東京商工会議所で開催し、入選者及び「明日に生きる 第32号 ー作文コンクール入選作品集ー」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、入選者以外の応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。
入選作品は「明日に生きる 第32号 ー作文コンクール入選作品集ー」として令和4年3月1日に発行した。
- (4) 優良卒業生選奨:優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校 917名 中等教育学校(前期課程) 12名

高等学校	200名	専修学校	97名	
高専・短大	14名			計 1,240名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校				計 110名
--------------	--	--	--	--------

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は6事業に対して後援名義の使用を承認した。

6 産学連携事業

- (1) 東京商工会議所及びあきる野商工会と連携して都立高校と企業の連携を推進した。
- (2) 東京商工会議所江戸川支部・葛飾支部と連携し、江戸川区・葛飾区の企業・専門高校・中学校との懇談会を開催した。(会誌 p44)

7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会(第1回)を7月2日(金)に都立八丈高等学校を会場にオンラインで開催した。参加者は会場校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等37名であった。(会誌 p62-63)
- (2) 産学懇談会(第2回)を8月2日(月)に都立大島海洋国際高等学校を会場にオンラインで開催した。参加者は会場校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等29名であった。(会誌 p64-65)
- (3) 産学懇談会(第3回)を11月30日(火)に都立産業技術高等専門学校の品川キャンパス、荒川キャンパスを会場にオンラインで開催した。参加者は会場校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等24名であった。(会誌 p66-67)

8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」第160号を9月1日に、第161号を1月12日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第59号を3月1日に発行した。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第32号を3月1日に発行した。
- (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議は中止となった。
- (5) 文部科学省・埼玉県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の第31回全国産業教育フェア埼玉大会は、10月30日(土)ウエスタ川越をメイン会場にオンラインで開催された。また、10月中旬から3月末日まで特設サイトから配信された。本会から会長及び都立新宿山吹高等学校、都立芝商業高等学校、都立千早高等学校、都立多摩工業高等学校が参加した。
第63回全国産業教育振興大会(埼玉大会)は動画配信により開催された。
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月1回更新した。

9 会員増加運動の推進

産業界会員は1社が退会し、1社が休会した。また新たに9社が入会した。学校会員は都立高校が1校入会し、専修学校が1校退会した。また、新たに中学校が8校入会した。個人会員は2名が退会し、1名が入会した。

10 広報活動の推進

新たに会報電子版の作成に取り組み、3月末までに22回発行し、会員に送信した。